

私は小学校の校長です。私の学校では多くのボランティアの方のお世話になっています。その中でも見守り隊の木村さんには、大変なお世話になっています。まず木村さんの自宅近くの横断歩道で、子どもを安全に渡してくれます。それから、学校の前の横断歩道に移動し、挨拶をしてくれます。子どもが登校してからは一階の教室を回ります。

十二月の終わり頃、「この頃木村さんをみないね」という職員の声が聞かれました。見守り隊の方から、木村さんが入院したことを聞きました。どうやら脳梗塞で体の自由が効かなくなったようです。教頭先生にお願いして木村さんのことを子ども達に、昼の校内放送で伝えてもらいました。校長先生が木村さんのお見舞いに行くので、木村さんにお手紙を書きたい子は書いてください、お手紙の要用紙を用意するので取りに来てください、と言ってくれました。業務員さんが罫の入った用紙を印刷して職員室の前に置いてくれました。明後日から冬休みが始まりますので、子ども達が手紙を書けるのは、一日しかありません。

翌日子ども達は登校すると、手紙を校長室に届けてくれました。子ども達の手紙には次のようなことが書かれていました。

- ・いつも学校で手と手でタッチしてくれて、うれしいよ。早く良くなって、またタッチしてください。
- ・妹が幼稚園に通う母です。幼稚園にも毎日来てくれた木村さんが入院されたと聞いて驚きました。早く良くなることを願っています。

400人弱の児童の学校ですが、300近くの手紙が集まりました。木村さんを思う気持ちが手紙に溢れていました。入院中の木村さんを見舞い、子どもたちの手紙を手渡しました。早速うれしそうな顔で手紙に目を通してくれました。優しい心が育っている子ども達と一緒に、木村さんが学校に帰ってくるのを待っています。